

平成29年度 学校評価 自己評価書

あま市立甚目寺南小学校

1 総括

(1) 教育目標

考える子 心ゆたかな子 たくましい子

学習指導要領の趣旨及びあま市教育立市プランに基づいて、知・徳・体の調和のとれた人間形成を図るとともに、個性の伸長と、生涯にわたり成長と発達を続けていくための生きる力をはぐくむ。

(2) 本年度の重点努力目標

ア 安心・安全の確保

- ・ 自らの生活を振り返り、自らの安全や健康に対する意識を高めさせる。
- ・ 校内及び通学路等の点検活動を確実に行之、安全で安心できる教育環境を維持する。
- ・ あらゆる場面での緊急事態・災害等を想定し、危機管理を徹底して行う。

イ 学力の保証

- ・ 「朝の読書」を中心に読書活動を積極的に推進し、落ち着きと集中力を育む。
- ・ 「漢字・計算コンクール」を通して基礎学力の定着を図る。
- ・ 教材提示方法や指導過程を工夫して、わかりやすい授業づくりに努める。
- ・ 学び合い活動を通して、他者と関わりながら主体的に学び合う授業をめざす。

ウ 人権の尊重

- ・ 異学年交流活動や通学団指導等を活用し、思いやりの気持ちを育み、相手に対する感謝と尊敬の気持ちを持つ経験を通して、お互いによりよい人間関係を構築する。
- ・ いじめ調査や Q・U テストの結果をもとに、教育相談活動を定期的に行い、いじめ・不登校の早期発見や未然防止に努める。

エ 健康の増進

- ・ 体育の授業や休み時間の遊びの中で、体力の向上に努める。
- ・ 各種カードを活用し、目標に向かって楽しみながら体力の向上を図る児童を育成する。

オ 開かれた学校

- ・ 保護者ととともに子どもの育ちを支えることができるよう、家庭との連絡を密に行う。
- ・ 「地域の子どもは地域で育てる」という考えのもと、地域の教育力（ゲストティーチャー、読み聞かせボランティア、見守り隊等）の活用を積極的に進める。
- ・ 幼・保・中・高との連携をより一層進め、幼児・児童・生徒の交流、教師の交流を深める。

2 自己評価の実施体制

- (1) 調査時期 平成29年12月（保護者）
平成30年2月（児童・教職員）
- (2) 調査項目 別紙アンケート参照
- (3) 調査対象 有効回答者数/対象者数
 - ・児童 243名/243名（5・6年を対象） ・学校評議員数 5名/5名
 - ・保護者 397名/641名 ・教職員 35名/35名（校長・非常勤等を除く）

3 調査結果

別紙アンケート結果参照

4 考察

(1) 保護者評価

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という回答が20項目中17項目で80%を超えた。また、90%を超えた項目は、11項目となった。

「2安全体制」「8学校行事」「9授業参観」の項目については、大変高い評価をいただいた。そのほかにも、「10いじめ防止」「11善悪の指導」などの指導に関わる項目や「12わかりやすい授業」「13健康状態の把握」など一人一人を大切にしている項目についても高い評価をいただいた。

「6授業への取り組み」「7家庭学習」「20読書習慣」など、児童の生活の様子については、やや数値が低かった。

(2) 児童評価

「1学校が楽しい」「2みんなで何かするのは楽しい」という項目（学校生活への満足度）で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた児童は90%を越えており、児童は学校での生活に満足していると思われる。

「3授業に進んで取り組み、調べたり考えたりしている」「4授業がよくわかる」という項目（学習への満足度）では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた児童は80%を越え、高い数値を示している。

「5たたかれたり、けられたり、強く押されたりした」「6暴力ではないがいじわるされたり、いやな思いをさせられたりした」という項目（いじめられた）では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた児童は20%を下回る結果となっている。「7たたいたり、けったり、強く押したりした」「8暴力ではないが、いじわるをしたり、いやな思いをさせたりした」という項目7・8（いじめた）については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた児童は10～15%程度と項目5・6とほぼ同じ傾向を示している。

(3) 教職員評価

「2学年は話しやすい」「3職員はまとまっている」「4困ったときに相談に乗ってくれる」「11わかりやすい授業」「13学校が楽しい」などは90%を越え、教職員のチームワークについては良好で、授業改善に取り組む姿、児童との良い関係がうかがわれる。

「1学級経営」「5退校時刻」「6疲労感」「7校務分掌」「8学級事務」など、実務的な面については、仕事内容の整理・処理に時間がかかり、多忙感を感じている部分が見られる。

「12あいさつができる」とについては、40%という数値になり一番低い項目となった。

(4) 学校評議員評価

読書タイムで教師もいっしょに読書するのは大変であるが、ぜひ続けてほしい。

交通指導員の増員について、配慮いただいた。コミュニティ等で人材を確保するよう本郷区で探しているがなかなか難しい。

畑の管理については、栽培委員会が高学年が低学年を教えるなど、異学年の交流を促進させることも一つの方法である。

先生が忙しいと子どもによくないという考えには賛同できる。今年は、校務主任が担任を持つなど、先生のやりくりも大変であったと思う。きちんとした形で担任が確保される状況が整うとよい。また母親や父親が忙しくて子どもの面倒を十分見られないのもよくないという点で同じことである。ぜひ、保護者にも子どもに寄り添うことの意義を広めてほしい。

通学路のカラー舗装などは、登下校時の安全指導に効果的だと感じている。

児童アンケートから学校が楽しいと答えている児童が多いのはありがたい。

きめの細かい学校運営に対して、学校評議員として学校を支える役割をしていきたい。

5 成果と課題

(1) 教育活動全般について

- ・ 甚南小ころをみがく「あいうえお」として「あいさつ・ありがとう」「いじめゼロ」「うつくしい学校」「えがお」「おもいやり」を中心に学校運営を進めてきた。児童・保護者・教職員とも「児童は学校が楽しい」という項目では90%前後の値を示すことができ、概ね良好な結果が得られた。
- ・ 生活委員会と児童会が中心となり、あいさつ運動を実施した。スローガンを個々に考え、手作りの旗に仕上げ、校門・昇降口で大きな声であいさつ運動を行った。
- ・ 保護者評価については、概ね良い評価をいただき、子どもが安全に学校に通い、落ち着いて生活し、生き生きと活動する姿を保護者に伝えることができた。
- ・ 教職員にゆとりを生み出すことで、児童にゆとりをもって接することができ、児童との良い関係が生まれると考え、学校運営を行ってきた。学年の経営を主任の先生が中心となっていくことで、教師間の協力体制の強化も図った。教師間の連携については、良い結果が得られたが、教職員のゆとりという点では、まだ改善の余地がある。

(2) 安心・安全の確保

- ・ 校内の点検活動については月1度行い、学校全体で共有してきた。今後も学校の安全点検や安全点検を確実にいき、未然に事故やけがを防げるように進めていきたい。
- ・ 通学団の付き添い下校や0の日の交通指導を通して、登下校の様子を確認し、危険個所の把握や交通安全指導をその都度行った。
- ・ 保健指導や学級指導を通して、生活を振り返り、自らの安全や健康に対する意識を高めることができるよう指導してきた。

(3) 学力の保証

- ・ 少人数指導担当教諭、市スクールサポーターを有効に配置し、複数教員による算数授業（TT指導）を全学年で実施した。学習のつまづきをそのままにせず、確実に定着させるために、きめの細かい指導を行い、早い段階でのつまづきを解消し、基礎的な計算力の充実を図ることができた。また、高学年では、自分の答えに自信が

持てない児童に積極的に声をかけて発言を促し、グループでの話し合い中に助言を与えるなど、学習活動の様々な場面で有効に働きかけることができた。

- ・ 全校で算数の現職教育に取り組み、学び合い学習の研究を進めたり、朝礼時の算数クイズの実施や、学年ごとに算数コーナーを設置するなど身近な環境に算数の素材を取り入れ、楽しく学ぶ環境づくりを行ったりした。
- ・ 漢字・計算コンクールについては、今年度も計画的に実施した。1回目で合格できなかった児童については、再度実施し、2回目で合格した児童にも合格証を発行した。このことで、次は合格したいという意欲を高め、進んで漢字・計算練習に取り組む児童を育てることができた。
- ・ 朝の読書タイムでは、10分間は教師も児童も黙って本を読むことが、習慣づいている。高学年では、長編小説など、読み応えのある本を何冊も読んでいる児童や、シリーズ本を全巻読破しようと挑戦する児童など読書の幅が広がってきた。
- ・ 学習活動においては以下の「甚南小授業のスタンダード」をもとに全校体制で取り組んだ。
 - 授業はチャイムで始まり、チャイムで終わる。
 - 授業のねらいを示し、授業のまとめを行う。
 - 学び合いの場面を学習に取り入れる。

この「甚南小授業のスタンダード」にしたがって授業を進めることで、学習規律を整え、お互いに協力し合い、学習内容を深めることができた。

(4) 人権の尊重

- ・ 相手の気持ちを思いやり、お互いに認め合える望ましい人間関係を構築するために、異学年の交流活動を充実させた。昨年度から「なかよしタイム」を設けて、月1回のペースで学年交流活動を行った。この「なかよしタイム」では、1年生から6年生の縦割り班を1つの単位として、全校児童を48の班に分けた。そして、各班の高学年が中心となって仲良く遊ぶ計画を立て、昼休みの時間を利用して楽しく交流活動を行うことができた。また、甚南祭りやスポーツカップなど、児童会活動の行事で、なかよし班を軸に活動することもできた。

この活動を通して、高学年の児童のリーダーシップを育成し、下学年の児童への思いやりの気持ちを育成することができた。

- ・ 福祉実践教室を5年生が実施した。点字・手話・車いす・高齢者体験・視覚障害者ガイドヘルプの体験を通して障がい者理解を図った。体験活動を通して「福祉の心」を理解し、人にやさしく思いやりあふれる心をはぐくむことができた。
- ・ 人権尊重の取り組みとして、いじめアンケート（あなたの心の天気は）を7月と12月に行っている。このアンケートを通して、心に何らかの問題を抱えている児童の把握に努めている。アンケートをもとに児童と面談を行い、一人一人の悩みに寄り添い、支援が必要な児童に対しては、面談後も声をかけ、不安を解消するよう心掛けた。さらに、杉村秀充先生を講師に招き、Q-Uテストの結果をもとに、分析方法と学級経営への生かし方の研修会を行った。学級集団のまとまりや個々の状況について把握し、学級集団の満足度や必要とする支援レベル、学校生活に対する意欲を分析して、学級経営に生かすことができた。

(5) 健康の増進

- ・ 学校保健安全委員会では、12月に甚目寺保健センター中村さんを講師に「睡眠」をテーマに児童・教職員・保護者が健康について学ぶ場を設定することができた。また2月には「子どもたちの瞳が輝くとき」と題して教職員と保護者が心の健

康について意見交換することができた。

- ・ なわとびがんばりカードを作成し、なわとびにも取り組んだ。休み時間には、高学年の児童が低学年の児童と一緒に挑戦している姿や、高学年と低学年と一緒に長なわを飛んでいる姿も見られるようになった。

(6) 開かれた学校

- ・ ホームページについては、こまめに更新するなど、子どもたちの姿を保護者や地域に情報発信することができた。
- ・ 学校であった出来事についてこまめに連絡するよう努めた。保護者からの問い合わせや、学校で起きたトラブルについては、その日のうちに確実に伝え、保護者とともに子どもの育ちを支えることができるよう、家庭との連絡を密に行った。
- ・ 保護者との相談については、ケースに応じて、担任だけではなく、学年主任や教務主任等が入り、学年や学校単位で対応することができた。
- ・ 幼稚園・保育園との連携については、大花・萱津保育園の園児を学校に招き、1年生との交流会を行った。新入学児童の教育相談を市教委とともに進め、該当保育園・幼稚園との情報交換や保護者との相談活動を進めた。
- ・ 中学校との連携については、中学校教師による6年生対象の出前授業や南中学校での部活動体験、吹奏楽部を招いての演奏会などを行い、交流を深めた。
- ・ 学校訪問時には、近隣保育園・五条高校にも案内を送付し、学校公開時に訪問をいただいた。
- ・ 多くの保護者や地域人材を学校教育で活用した。今年も、1年生の昔の遊びの講師を地域の高齢者に依頼し、お手玉、羽子板、竹トンボなどの遊びを、地域の皆さんから教えていただく機会を設けることができた。
- ・ 5年生のミシン（家庭科）の授業や6年生の調理実習では、保護者からボランティアを募った。ミシン縫いの実習や卵焼きづくりでは、お母さん先生として、各班に一人ずつ保護者の協力を得ることができた。また、多くの児童は卵焼きの経験を弁当の日のおかずづくりに活かすことができた。
- ・ 1年間お世話になった方々（57名）を招いて「ありがとうの会」（全校集会）を開き、各学年から感謝のメッセージを伝えた。

6 改善策

(1) 学校教育全体を通して

- ・ 「甚南小ころをみがくあ・い・う・え・お」を次年度も継続して掲げ、一人一人が相手の気持ちを思いやることのできる児童の育成を図る。
- ・ 「児童よし」「先生よし」「保護者よし」の三方よしを目指し、それぞれがお互いを信頼・尊敬できるよう学校教育活動を進めていく。

(2) 安心・安全の確保

- ・ 日常の安全点検を確実にを行い、安全で安心できる教育環境を目指す。
- ・ 緊急時の対応について見直し、危機管理の体制を整備する。
- ・ 病気やけがの予防、交通規則の遵守など、自分の命は自分で守ることができるよう、学級活動、毎月の保健指導や委員会活動、交通安全教室、全校集会などの場を生かして保健安全に対する意識づけを図る。

(3) 学力の保証

- ・ 少人数指導担当教諭や市のスクールサポーターの支えによって、少人数指導は、効果的に進めることができた。授業を進める担任と、それを支える教師・サポーターとの連携をさらに深めることにより、少人数指導の効果を挙げていきたい。
- ・ 学習規律の確立を図り、学習に意欲的に取り組むことができる環境を構築する。
- ・ 算数の学習を中心に校内研究を進め、自らの考えを持ち、相手の良さを認めながら学び合う学習を全校体制で進める
- ・ 「漢字・計算コンクール」を次年度も実施することで、漢字・計算などの基礎的な学力を養う。
- ・ 教師の力量向上に向け、「学び合いによる授業展開」や「ユニバーサルデザインを取り入れた授業」についての研修を充実させる。これにより、子どもたちが意欲的に学び、主体的に学び合う授業をめざす。

(4) 人権の尊重

- ・ 子どもたち一人一人に寄り添い、教師に何でも相談できる環境を整える。
- ・ いじめ・不登校については早期発見、即対応に努めるとともにスクールカウンセラーやあま市教育相談センター等の機関と積極的に連携し、問題解決を図る。また、Q-Uテストや、いじめアンケートを活用し、一人一人を適切に把握し、一人一人に寄り添いながら、より望ましい人間関係を構築できるよう支援する必要がある。
- ・ 異学年交流については、児童主体の活動となるよう来年度も計画する。「なかよしタイム」の縦割り班を生かして、日常の学校生活の場でも、上の学年が下の学年と一緒に遊んだり、互いに助け合ったり姿が見られるよう、交流をさらに深める必要がある。

(5) 健康の増進

- ・ なわとびがんばりカード等、学校全体で楽しく体力づくりに取り組める活動を通して、積極的に体を動かし自ら進んで体を鍛えることができる児童の育成をめざす。
- ・ 体育の授業で体を動かす楽しさを体感させ、休み時間になったら進んで運動場で遊ぶなど、遊びを通して体力の向上を図ることができる児童の育成をめざす。
- ・ 保健指導の中で健康に対する意識が持てるよう指導を充実させる。
- ・ 学保健安全委員会を開催し、PTAと連携を図って、児童・保護者・教師が健康について学ぶ場を次年度も設ける。

(6) 開かれた学校

- ・ 保護者とともに子どもの育ちを支えることができるよう、家庭との連絡を密に行う。
- ・ ホームページを通して、保護者、地域を対象に学校の経営方針を伝えるとともに、学校日記を更新することを通して、学校の日々の姿を発信する。
- ・ 子どもたちのために活動している地域ボランティアと人々との連携を充実させ、学校教育活動に生かす。また学校を支える人たちに子どもたちが感謝する場面を設ける。
- ・ 「地域の子どもは地域で育てる」という考えのもと、地域の教育力（ゲストティーチャー、読み聞かせボランティア、見守り隊等）の活用を次年度も積極的に進める。
- ・ 幼・保・中・高との連携については、今後もいっそう進めていきたい。